

健康はハーモニー

患者目線のカイロプラクティック

竹谷内伸佳

初版



Illustrated by Kei Takeyachi

序論

本書の大きなテーマは「健康」です。健康の本質は、科学で扱うものではなく、哲学の範疇ですから、各章でゆっくりと語っていきたいと思います。

「健康はハーモニー」という題名は、「健康は、神経系と運動器系のハーモニー（調和：harmony）」を意味しています。筋骨格系（musculoskeletal system）は、運動器系と同義語で使用します。筋骨格系と関係の深い腰痛や背部痛、首や肩痛などの分野を扱うのは、整形外科とカイロプラクティック、その他数多くの職種があります。「カイロプラクティックとは、手技によって脊椎の歪みを矯正し、神経生理機能を回復する方法」と広辞苑7版にあります。自然療法として脊柱・骨盤に特化した検査と治療ができる能力の持ち主は、カイロプラクターです。ここで述べるカイロプラクターとは、国際基準のカイロプラクティック教育を終了した証明となる学位の持ち主です。法律がある国々では公的な開業資格制度があります。日本では法律がないので、一般財団法人 日本カイロプラクティック登録機構（JCR）に登録できる一定の教育を終了した人と言えるでしょう。JCRのホームページ（www.chiroreg.jp）で登録者を確認できます。法律がないと言うことは、誰でも開業できるので、治療による危険やワイセツなどの倫理問題が以前から指摘されています。私も安全な技術で安心できる先生でなければ、治療を受けたくありません。

「患者目線のカイロプラクティック」という副題は、「患者目線でカイロプラクティックを哲学する」という意味が込められています。患者目線とは、治療に来院する多くの患者の目線だけでなく、私も治療を受ける側の一人として参加しています。哲学（philosophy）は、物事の本質、真理を追求することですが、そのために私は科学知識を少し取り入れながら、私なりの自由な発想で健康を妄想したいと思います。私の哲学（It is my philosophy.）と言うわけです。生成AIではできない芸当です。

本書の読み方

私なりに最初から順番で読み進められるように工夫したつもりですが、どの章から読み進めても構いません。各章ごとに「まえがき」をつけ内容を紹介しています。本書では、イラストを活用して、言葉をイメージで補うようにしました。索引の用語には下線を引き、重要な用語にはゴシック体としました。分かりやすいようにと私のイラストも加えました。

目次

第1章 健康哲学と臨床手順 「カイロプラクティックとは何か」

第1部：創始者の健康哲学「インテリジェンス」

第2部：カイロプラクティックの臨床手順

第2章 カイロプラクティックの基本情報 「哲学とは」

第1部：患者向けの基本情報

第2部：カイロプラクティックの適応

第3章 来院者の喜びの声 「多彩な来院者」

第1部：Googleの口コミを読む.

第2部：来院者を5分類に区分ける

第3部：来院者の心

第4章 患者の素朴な疑問 「アドバイスの裏側」

第1部：患者の疑問に答える

第2部：個別疾患の効果について

第5章 運動器の検査と治療 「関節に特化した手法」

第1部：部位別の多角的分析

第2部：部位別の評価と治療

第6章 健康と医療を考える 「情報の氾濫」

第1部：健康に関する話題

第2部：医療に関する話題

第7章 カイロプラクティック理論の発展 「科学とは」

第1部：分野別の見方

第8章 DDパーマーとその後の定義 「療法から専門職へ」

第1部：創始者

第2部：開発者とその後の定義

第9章 カイロプラクティックへの批判

第1部：海外での危険報道

第2部：日本での危険報道

第10章 カイロプラクティック分野の発展

第1部：世界のカイロプラクティック

第2部：日本のカイロプラクティック

第3部：研究について

索引

第1章 健康哲学と臨床手順

まえがき 「カイロプラクティックと何か」

私たちの一般向けパンフレットの定義を紹介します。「カイロプラクティックとは、背骨の歪みを手によって調整し、神経系の働きを高めて健康を増進する自然療法です（参1）。1895年に米国人、ダニエル・デビット・パーマー (Daniel David Palmer) により創始され、現在、欧米では資格化、法制化されたヘルスケアの専門職として確立しています。」

上記の定義の中に「①背骨、②手、③神経系、④健康、⑤自然療法、⑥ヘルスケア、⑦専門職（プロフェッショナル）」という7つの重要キーワードを入れました。

ギリシア語でカイロは「手」、プラクティックは「技」を意味しています。これらを「手技療法」と訳すと、本来のコンセプト（概念）が損なわれるのでカイロプラクティックとカタカナで表記します。なお、カイロプラクティックを行う資格のある人をカイロプラクターと呼び、北米のカイロプラクティック大学を卒業するとドクター・オブ・カイロプラクティック(DC)という職業学位（professional degree）とアカデミック学位（Academic degree）の理学士（Bachelor of Science）の両方を授与されます。学位の詳細は、P106を参照。

第1部では、創始者DDパーマー（図1-1）の語ったユニバーサル・インテリジェンスを紹介したいと思います。人としての生き方、健康の捉え方、人間関係の知恵を授けるものと言えるからです。もちろん、それは人間学の知恵、健康哲学でもあります。しかし、医学が発達した現在、これには科学的根拠がないと批判する人がいます。それには、哲学、科学、アートを説明しながら少しずつ答えを出していくつもりです。人類の歴史から見れば、人を癒すのは祈禱師（medicine man or shaman）の仕事で、治癒をもたらすのは自然治癒力です。誤解を避けるためにも宗教との関係を示します。第2部では、カイロプラクティック大学の臨床手順を参考に、治療全体の流れを紹介します。

第1部：創始者の健康哲学「インテリジェンス」

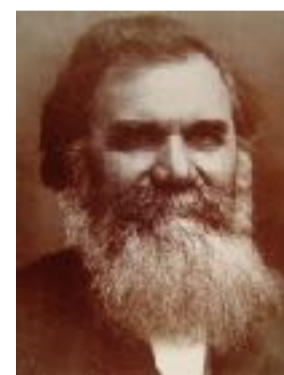


図1-1 DD Palmer

1. ユニバーサル・インテリジェンスという知能

DDパーマー（ダニエル・デビット・パーマー）は、人の健康について考え抜き、3つのインテリジェンスを想定して説明を行いました。その中で最も重要なユニバーサル・インテリジェンス（Universal intelligence：絶対的知能）の存在を大前提に置きました（参2）。これは、宇宙の万物を全て創造し、維持しているものです。DDパーマーはキリスト教徒ですが、ユニバーサル・インテリジェンスは、一神教のゴッド（God）＝造物主（The Creator）と区別された概念です。

ゴッドは、人間や生物・無生物を作ったものとされ、天にいるゴッドと地球にいる信者が契約をする関係です。決してゴッドが人間と同格になりえない関係です。他方、日本のような多神教ではあらゆるものに神が宿るとされています。神々の中に多少の上下がありますが同格です。生物や無生物すべて、人間でも身体のいたるところに神が宿ると考えても違和感はありません。しかし、**ユニバーサル・インテリジェンス**は、一神教と多神教のどちらの考えにも属せず、両方の良いとこ取りに思えます。自然の大宇宙と人体内の小宇宙を表現しているからです。この考えは、絶大な他力のお陰で自分が生かされている、自分は小さな存在だけど自力の中に絶大な他力の一部が宿っていると言うもので、それらに感謝をする気持ちが生まれ、自ら成長します。カイロプラクティックの創始者が考えた最も独自性の高い発想であると私は確信しています。

ユニバーサル・インテリジェンスに似た用語は、故村上和雄筑波大学名誉教授が「**何か偉大なもの** (Something Great) (参3)」と表現しました。近年、人智を超えた世界は、量子力学で最近使われ始めた**ゼロポイント・フィールド** (Zero Point Field) 仮説 (参4)に通じる場所があります。田坂広志氏が、「大いなる何か」を考えるなかで強調しているゼロポイント・フィールドにつながるから不思議です。それは、個人の無意識や集合的な無意識が、超時空的無意識につながる話で、宇宙の大きなエネルギーと交信できるというものです。あまり深入りすると誤解されるので、田坂氏の本を読んでいただくことにしましょう。

宗教 (religion) の定義：小室直樹氏が紹介したマックス・ウェバーの宗教の定義は、「人間の行動を意識的、無意識的に突き動かしているもの」です (参5)。すなわち、「信じて疑わないもの」。それはある種の絶対性を持つので、他人が反論しても無意味な結果に終わります。宗教は古く、ホモサピエンスの共同体形成と共にあると言われているものです。明治政府が「～教」のように言葉を整理しました。江戸時代、カトリックではキリスト教を伴天連と呼んでいました。カトリックの呼び名でキリストは天主 (Deus) でした。プロテスタントが明治時代にゴッド (God) を「神」と和訳したことから日本の「神々 (gods)」との混乱が始まりました。狭義の宗教でいえば、ユダヤ教・キリスト教・イスラム教の3つが一神教。他にはヒンドゥー教、仏教、儒教、神道などがあります。広義の宗教では、あらゆるイデオロギー、共産主義や資本主義など「主義ism」がつくものは擬似宗教に含まれます。これとは別に、私たちは誰しも1つや2つ信じて疑わない擬似宗教を持っているものです。

2. **イネイト・インテリジェンスという知能**

宇宙の大自然から誕生した自分は、「自」然の一部「分」です。DDパーマーは、**ユニバーサル・インテリジェンス**の一部分である自分の中に生まれ持ったものを**イネイト・インテリジェンス** (Innate intelligence：**先天的知能**) と呼びました。両インテリジェンスとも人が手心を加えることができない大自然の知恵です。**イネイト・インテリジェンス**は、**生命力** (Life force) に近い用語で、生きていく知恵、力があり、成長、生殖、適応力、自然治癒力、抵抗力、回復力、修復力、免疫力などの意味を含みます。身体には神経ネットワークが

あり、神経を介した神経力 (nerve force) 、生命エネルギー (vital energy) が全身をめぐる臓器や細胞が維持できていると彼は考えました。太陽が雲により邪魔されると太陽エネルギーが十分に地上に降り注ぎません。同様に、生命力が邪魔され曇ると脳からの生命エネルギー供給が不安定になり、身体臓器のトーン (tone：調子) が下がり、機能障害を起こすと彼は解釈したのです。情報の入出力の適正な循環は、彼の健康哲学から生まれた思想ですから、科学的な説明ではありません。図1-2のように、人間の不可思議な部分を説明するには大変都合が良い考え方なのです。

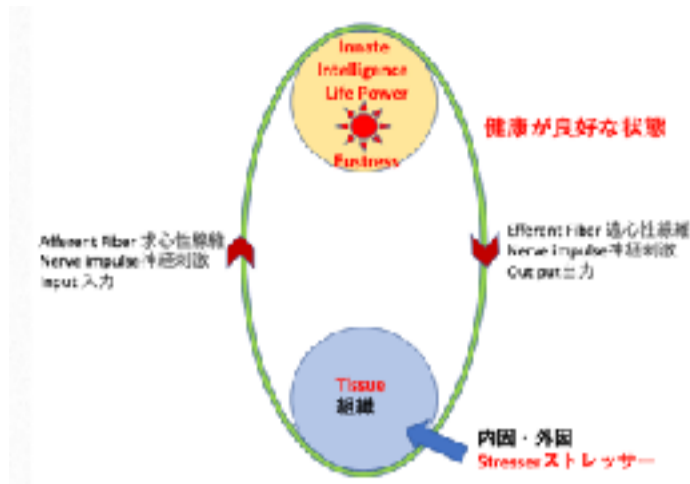


図1-2 DDパーマーの考えを筆者が修正

生まれた時から心臓が動き続けている。このように自分が生きているという感覚は、先天的知能のお陰です。さらに、微妙な宇宙のバランスにより地球とその生命体が存在し、さらに太陽 (エネルギー) や大気 (酸素) 、水、鉱物、動植物などに恵まれ、私たちは栄養を摂ることができます。この生かされているという受け身の感覚は、この広い宇宙の存在を認め、自分の内にある生まれ持った命に感謝することに他なりません。命あるものは、生き物、性別や年齢を超え皆等しく平等であるという考えにも通じます。ユニバーサル&イネイト・インテリジェンスを理解できると、自分の煩惱が小さくなり、あらゆるものへの感謝の心が大きくなるから不思議です。感謝の心は、人の生き方、人間関係、健康を維持するのに必要不可欠な存在なのです。

3. エジュケイテッド・インテリジェンスという知能

DDパーマーは、生まれ持ったイネイト・インテリジェンス (先天的知能) に対して、後天的に獲得した後天的知能 (Educated intelligence) を想定しました。人類が文明を発展させてきたのは、まさに後天的知能のお陰であるということです。しかし、人類は同時に自然破壊もおこなってきた訳で、後天的知能は、絶対的ではなく相対的であるために時と場合によっては、良くも悪くも解釈が変化します。近年の科学の発達とその恩恵は、すごいものですが、同時に人類や自然界に不都合をもたらしているとも言えるのです。

私たちが健康であると言うことは、ユニバーサル・インテリジェンスや個体内のイネイト・インテリジェンス、さらにエジュケイテッド・インテリジェンスのお陰でよりより良く活かされていることでもあります。人間社会が作り出した便利は、不便を克服してきました。普通、私たちが健康でありたいと願うとき、20世紀から人類が作り出した栄養物や健康食品、薬物などを摂取するなど後天的知能を働かせることになります。都市生活の中で人工的な空間に囲まれていると、つい後天的知能が肥大化して、「人類は自然の征服者である」、あるいは「自分だけで生きている」と錯覚を起こしてしまうことがあります。生きている自分が大きくなる分、自己中心的になり、煩惱も増えていくことになります。人類は共同生活

をし、助け合いながら協調性を養ってきました。同時に仲間を大切にすあまり、他者を排他的に抹殺することもあるのです。それが人類だけにみられる戦争なのです。1950年から地球全体で「人新世」と呼ばれる地層が注目されています。人類の欲望が作り出した環境の悪化が、陸上も水中でも生物の個体数を激減させているのです。便利を謳いながら自ら住みにくい世の中を作っているのです。このように、後天的知能は使い方次第で我々を良くも悪くもする矛盾を抱えた存在なのです。

以上をまとめると、生かされていると言う土台（定数）に、生きていたと言う建物（変数）を乗せてカイロプラクティック根本原理が作られています。哲学では、生命観、人生観、健康観、医療観、倫理観、歴史観、世界観、宗教観を駆使することになります。そして、128年間に渡りカイロプラクティック理論は、この哲学に科学的要素を加えて発展し続けているのです。

4. 3つのインテリジェンスの臨床的活用

私は、カイロプラクターとしてユニバーサル・インテリジェンスを常に念頭に置いて、他力との交流を行っています。これを「何か偉大なもの (Something Great)」と表現しても良いと思います。交流は、祈りと感謝の繰り返しです。ここでいう祈りは、多くの人々が神社で行う自分の都合の良い願い事と同じではありません。目の前の人々が健康に復帰できるように無心で祈ることです。生かされていることへの感謝はもとより、祈りのお礼としての感謝もします。祈りの結果がどうあれ、感謝をします。自分の都合次第で結果を評価しないことです。ユニバーサル・インテリジェンスは、常に**最適解** (suitable solution) を与えてくれていると捉えるのです。そのような神聖な気持ちを持ちつづけるには、何か偉大なものの存在を氷山の一角である意識ではなく、その水面下の無意識の世界にまで落とし込むことです。しかし、これは容易でないのです。

人類の誰もが意識、無意識に**祈り**を行なっています。何か偉大なものに救いを求めるのは当然かもしれません。人智を超えた厳しい自然界が存在する、自然は恐怖でもあり同時に福をもたらすものです。困難なプロジェクトを進める科学者、難しい手術をする有名な外科医なども同様に祈りを行なっています。「人事を尽くして天命を待つ」の気分です。

祈ることがない人でも、生かされていることへの感謝は常にできます。病気 (dis-ease) は、ユニバーサル・インテリジェンスから逸脱した状態を気づかせてくれることでもあります。だから、健康を損ねても感謝する生き方、受け止め方ができる人は、健康的な生活を維持することができるのだと思います。

治療は、**複雑系**なので信頼関係のもとでしか効果を期待できません。治療効果が現れた時、私はカイロプラクターの力量で良くなったと考えずに、患者自身のイネイト・インテリジェンス（自然治癒力）が活性化されたと解釈します。臨床家はあくまで自然治癒力を高める環境づくりをして、あとは患者の自力に期待をかけるのです。いずれにせよ、臨床家は多力であるユニバーサル・インテリジェンス（＝何か偉大なもの）に感謝することになります。

最後に「本書を書きたかった理由」

最初の本の構想は、患者から得られた素朴な質問に答えたいという思いでした。そして何気ない会話から私が多くの貴重な情報を学習させてもらいながら、今までの本とは違う患者目線の角度からカイロプラクティックを語ろうと考えていました。

2021年、統合医療講座でカイロプラクティック学を語る機会に恵まれたのです。対象者は医師、看護師らでしたので医療関係者向けに大いに工夫してチャレンジしました。

その後、カイロプラクティックの知識を持たない法曹会の人々と関わる機会があり、彼らにカイロプラクティックの専門職を説明する必要性に迫られました。

2022年10月、東京カレッジオブカイロプラクティックが閉校したのを機会に、卒業生向けに自分の書き残しておきたいことをまとめようと決心しました。

このようなことを考えているうちに対象者が、患者、素人、医療関係者、専門家に至るまで幅広くなってしまったのです。ともかく、分かりやすく基本に忠実にすれば良いとの気持ちで原稿を書いています。

DDパーマーのユニバーサル・インテリジェンスは、私が講師をしていた頃では簡単に触れるだけでした。これは、科学とは無縁の彼の思想ですから、扱い方が大変難しいと言えます。行き過ぎると生気論、少なすぎると科学派と同業者から指摘されてしまうのです。

幸いに、DDパーマーの1910年の原書が再販されたので、それを購入して読む機会に恵まれました。そして、初めて、私なりにDDパーマーの考え方を膨らませて、ユニバーサル・インテリジェンスを今の時代に合わせて解釈し直すことができました。古きものを磨いたら、再び光を取り戻したような感じです。また、初心に戻りカイロプラクティックを再度学習することができたので、長年積みもり積もった頭の中を整理することにもなりました。

カイロプラクターは、自分のテクニックにこだわる人が多いようです。自分の好みだから致し方ないと思います。ただし、患者がどう受け止めるかという相手側の立場に立ち、反省していないと患者のウケが悪くなってしまいます。また、マンネリ化にも注意が必要です。臨床家が患者を治療するだけでなく、自ら患者として治療を受けてこそ、見えない世界も広がるのではないのでしょうか。これらの話が、最初の本の構想に戻る理由でもあります。皆様の今後のご発展をお祈りしております。

2023年11月
竹谷内伸佳